



第11期 中間株主通信

2017年4月1日から2017年9月30日まで

ダイキョーニシカワ株式会社

証券コード：4246



ごあいさつ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
当社の第11期第2四半期連結累計期間(2017年4月1日から2017年9月30日まで)の連結業績につきまして、ご報告申し上げます。

2017年12月

代表取締役社長 内田 成明

第2四半期の業績について

当第2四半期連結累計期間(2017年4月1日から2017年9月30日まで)の連結業績は、主要販売先への売上増等により、売上高は前年同期と比べ6,892百万円(9.3%)増加の81,367百万円となりました。

営業利益は、次世代車種開発に伴う研究開発費の増加等はありませんでしたが、増収効果やコスト低減活動等により、前年同期と比べ986百万円(13.3%)増加の8,408百万円となりました。経常利益は、前年同期と比べ1,950百万円(28.1%)増加の8,893百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期と比べ1,044百万円(20.7%)増加の6,083百万円となりました。

通期の業績の見通しについて

通期(2017年4月1日から2018年3月31日まで)の連結業績予想につきましては、売上高は、主要販売先への製品売上増等により、前回予想を上回る見込みとなりました。利益につきましては、増収効果やコスト低減活動、為替変動の影響等により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに前回予想を上回る見込みとなりました。売上高167,000百万円(前期比7.3%増)、営業利益16,700百万円(同16.2%増)、経常利益17,300百万円(同24.8%増)、親会社株主に帰属する当期純利益11,800百万円(同16.9%増)を見込んでおります。

配当について

中間配当につきましては、2017年11月7日開催の取締役会において、一株につき16円とすることを決議いたしました。

連結決算ハイライト

主要連結財務データ

(単位：百万円)

	第9期 2015年度	第10期 2016年度	第11期(当期)第2四半期 2017年度第2四半期
売上高	160,779	155,643	81,367
営業利益	17,236	14,376	8,408
経常利益	16,450	13,865	8,893
親会社株主に帰属する当期・四半期純利益	11,576	10,096	6,083
1株当たり当期・四半期純利益 (単位：円)	159.69	137.50	85.87
総資産	123,568	120,409	125,522
純資産	54,047	56,530	63,528
1株当たり純資産 (単位：円)	712.37	777.54	870.54

※当社は、2016年1月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。第9期(2015年度)の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり当期・四半期純利益」を算定しております。

連結財務ハイライト

■ 第2四半期 ■ 通期



事業のご紹介

ダイキョーニシカワは、国内の各自動車メーカー向け樹脂部品の分野で、材料ブレンド開発から、製品開発、設計、製造までを手がける総合プラスチックメーカーです。

自動車外装・外板部品



- バンパー
- フェンダー
- フード
- バックドア
- ルーフ
- ルーフラック
- スポイラー
- ラジエーターグリル
- リアガーニッシュ
- サイドステップモール
- 等

自動車エンジンルーム部品



- オイルストレーナー
- エンジンカバー
- インテークマニホールド
- シュラウドパネル
- シリンダーヘッドカバー
- パワステタンク
- 等

自動車内装部品



住宅関連

バスユニット部材

- バスタブ
- カウンター
- ミラーパネル
- 洗い場



洗面・キッチン部材

- 人造大理石キッチンカウンター
- ガラス繊維レス人造大理石製品

トイレタリー部材

- 便座

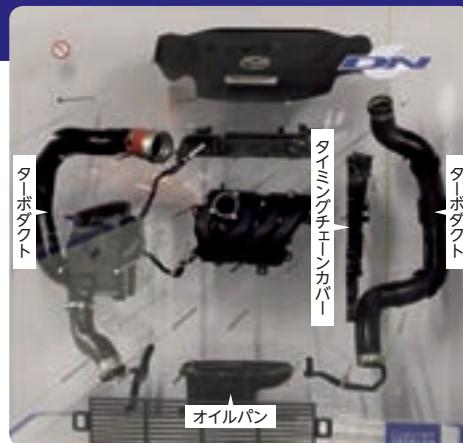
研究開発品のご紹介

当社は「ものづくり」のプロとして、安全で環境にやさしい製品の提供を目指して開発を続けています。

今回は、現在当社が開発に注力している、エンジンルーム部品についてご紹介します。

研究開発品 [エンジンルーム部品]

5月に横浜で開催された「人とくるまのテクノロジー展」では、エンジンルーム部品の研究開発品として、「タイミングチェーンカバー」、「オイルパン」、「ターボダクト」の展示も行い、多くの来場者の方々からの反響を得ました。



タイミングチェーンカバー



タイミングチェーンカバーは、エンジンの吸気と排気を的確なタイミングで行うためのチェーンを覆う部品です。樹脂化により大幅な軽量化を図ります。

オイルパン



オイルパンは、エンジンの底部にある、エンジンオイルを溜める器です。外からの衝撃が想定されるため、高い剛性が求められます。また、樹脂化による軽量化も期待されています。

ターボダクト



ターボダクトは、自動車の燃費性能を高めるターボチャージャーを搭載する車の圧縮空気を通すための管です。耐熱性の問題から樹脂化が進んでいませんでしたが、近年樹脂化のニーズが高まり、注目されています。



ターボチャージャーとは？

エンジンのシリンダーに強制的に空気を送り込む過給機のことです。空気の量が増えることでより大きな爆発を行えるようになるため、そのエンジンの排気量以上のパワーを出すことができるようになります。

地球温暖化対策の一つとして、自動車からのCO₂排出量の削減が挙げられており、燃費性能の改善が求められています。自動車の軽量化は今や不可欠となりました。燃費向上や排出ガス低減のため、エンジンの小型化・高出力化も進んでおり、ターボチャージャーを搭載する車も増えています。樹脂は形状の自由度が高く、また他の部品との一体化も比較的容易であるため、小型化への貢献が期待できます。しかし、エンジンルーム部品には耐熱性や強度など厳しい条件が求められることから、現在は金属製品が主流です。当社では、樹脂の新たな可能性を追求し、樹脂化実現を目指して、材料や工法、製品の形状等の最適化について研究を重ねています。

今後も車の軽量化を通じ、地球環境改善に貢献できる研究開発を進めてまいります。



ここで研究しています

R&D※本部

R&D本部は、本社から約500m離れた、広島市安芸区に位置しています。

量産採用前の新製品・新技術の開発を行っており、市場調査、新テーマの発掘、基礎研究(実験・評価・解析など)、製品への応用研究、メーカーへの提案を主な業務内容としております。



《R&D本部概要》

所在地:広島市安芸区矢野新町2丁目1-19
従業員数:64名

※ R&D…Research and development. 研究開発。

プラスチックのおはなし

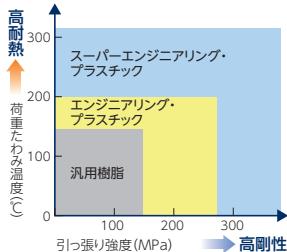
ダイキョーニシカワの強み

当社は、常に新しい発見と可能性を追い求めています。
プラスチックについての当社の多彩な技術や、開発にかける熱い思いをお伝えします。

第5回 高耐熱・高剛性に挑む

「エンジンルームのような温度が高くなるところの部品にプラスチックを使用すると、熱で溶けて変形するようなことはないのですか?」というご質問をよくいただきます。自動車部品に要求される性能は非常に厳しく、長期の保証が求められるため、何度も試験を繰り返し、検査をクリアしなければ、製品として市場に出すことはできません。

金属に比べると、プラスチックは熱に弱く強度も低いと思われがちですが、プラスチックにも色々な種類があり、耐熱性・剛性が強化されたエンジニアリング・プラスチックやスーパーエンジニアリング・プラスチック等、優れた材料も開発されています。当社では、様々な材料の特徴や性能、コスト等

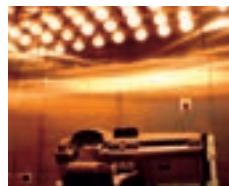


を考慮しつつ、エンジンルームという過酷な環境にも耐え得る最適な材料の開発に注力しています。

高耐熱・高剛性を生み出すには、材料だけでなく構造設計も重要です。部品にかかる荷重や抵抗を計算し、どこにどのような形状で配置するのか、最適な長さや厚みはどのくらいか、試行錯誤しながら改良を重ねています。

常識を覆すような新しい樹脂製部品の試作が完成したとしても、量産するための工法の確立ができ、耐久性が保証できるものでなければ製品化することはできません。当社では、工法を比較検討し、実験と検証を繰り返しつつ、画期的な新しい工法やオリジナルの技術を編み出し、「樹脂製は不可能」と思われていた部品の樹脂化に成功してきました。

これからも樹脂製自動車部品のパイオニアとしての自負と、不撓不屈の精神で、果敢に挑戦を続けてまいります。



ダイキョーニシカワ 開発担当者に聞く

Q 最近のエンジンルーム部品の樹脂化事例では、どのようなものがありますか?

A ベンチレーションパイプの樹脂化に成功しました。ベンチレーションパイプは、エンジンと吸気パイプの間を繋ぐ通路の役目を果たしている部品です。

Q ベンチレーションパイプは何℃まで耐えられますか? 鉄製に比べるとどのくらい軽くなりましたか?

A 機能保証温度は130℃です。車種によっては、より高い温度を要求される場合もあります。重量も製品によって異なりますが、今回の製品は鉄製に比べて35%軽量化することができました。

Q 樹脂化するにあたり、どのような点に苦労しましたか?

A 十分な強度を確保するため、最適な構造を解析や試作実験で事前に検討しました。通気抵抗も従来製品以上に減らすため、通路形状設計や成形条件を十分に検証しました。

ベンチレーションパイプはエンジンルーム内の限られたスペースにパイプを通すため、従来技術の工法では難しく、新規開発工法を採用しました。品質のバラつきをなくすための検証を重ね、量産できるまでにはかなりの時間を要しました。



会社概要

社名	ダイキョーニシカワ株式会社
本社	広島県安芸郡坂町北新地一丁目4番31号
設立	2007年4月1日
資本金	54億2,665万3,900円
従業員数	4,994名 (連結)

会社役員

代表取締役社長	内田成明
代表取締役副社長	藪上富美高
取締役専務執行役員	竹岡健次
取締役専務執行役員	桧山俊夫
取締役専務執行役員	錦村元治
取締役専務執行役員	和木深水
社外取締役	出原正博
社外取締役	圓山雅俊
社外取締役	佐々木茂喜
常勤監査役	繁元則彦
社外監査役	安村和幸
社外監査役	廣田亨

グローバル事業拠点

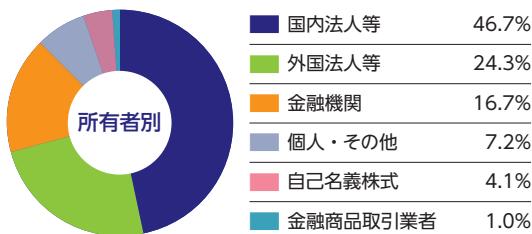


※上記の他に、連結子会社2社、持分法適用関連会社2社があります。

株式の状況

発行可能株式総数	236,704,000株
発行済株式の総数	73,896,400株
単元株式数	100株
株主数	3,818名

株式分布状況



大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
西川ゴム工業株式会社	11,835,200	16.7
株式会社イノアックコーポレーション	3,924,600	5.5
三菱商事プラスチック株式会社	3,924,600	5.5
住友商事株式会社	3,573,680	5.0
株式会社広島銀行	3,541,800	5.0
マツダ株式会社	3,541,800	5.0
三井物産株式会社	3,222,720	4.5
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口9)	2,329,500	3.3
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	1,967,900	2.8
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 380578	1,909,800	2.7

*当社は、自己株式3,048,638株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。また、持株比率は発行済株式の総数から自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヵ月以内
剰余金の配当の基準日	期末配当3月31日 中間配当9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 0120-094-777 (平日9:00~17:00)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
公告掲載方法	電子公告 http://www.daikyonishikawa.co.jp/ 但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

お知らせ



JPX-NIKKEI 400

当社株式がJPX日経インデックス400に選定されました

この度、株式会社東京証券取引所及び株式会社日本経済新聞社が共同で算出する「JPX日経インデックス400」の構成銘柄として、当社株式が選定されました。

「JPX日経インデックス400」は、資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、グローバルな投資基準に求められる諸要件を満たした、「投資者にとって投資魅力の高い会社」で構成される株価指数です。

今後も皆さまのご期待にお応えすべく、更なる企業価値向上を目指してまいります。引き続き、皆さまの一層のご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。



ダイキョーニシカワ株式会社

TEL:082-885-9979

<http://www.daikyonishikawa.co.jp/>

